

非核の政府を求める石川の会 会報

非核・いしかわ

日本平和大会 in 岩国

基地も軍事同盟もない日本へ

池田 治夫

一月一五日(金)～一七日(日)、山口県岩国市で開催された二〇一三年日本平和大会に石川県四名の代表団の一人として参加した。全国から一二〇〇名の参加であった。



五層の木造橋からなる錦帯橋

岩国の街の第一印象

金沢駅から「サンダーバード」に乗り、新大阪駅で山陽新幹線「さくら」に乗り換えて広島駅に着くころには、もう尻が痛くなっていた。更に山陽線各駅停車に乗り換えて瀬戸内の景色をボーツと眺めていたら五〇分程で岩国駅に着いた。駅前は人通りも少なく静かな街との印象で、開会まで時間があつたので有名な「錦帯橋」を見に行くことになった。錦帯橋はアユの泳ぐ清流「錦川」にかかる五層の木造橋だが、名の通り優雅な曲線美を見せていた。一帯は小規模な城址公園として整備され、観光地ずれた感じもなく、地味な風情であつた。これらが岩国の街の第一印象であつたが、後で現実を知ることによる「乖離」がまた見事であつた。

オスプレイ訓練反対の一点で

一日目夜の六時半から岩口市民会館で開会集会があつた。主催者と来賓の挨拶、メッセージと海外代表(フィリピンと韓国の平和団体)の紹介、集会「基調」の提案と続いた。全国各地の運動の紹介では、沖縄・高知・島根・滋賀・大阪・静岡・群馬・東京の面々が次々と登場し、最後に全員が舞台いっぱい横断幕を携えて広がった。何かと思えばオスプレイ訓練に反対する運動の大パノラマであつた。ヘリ

非核 5 項目

- ① 全人類共通の緊急課題として核戦争防止、核兵器廃絶の実現を求める。
- ② 国是とされる非核三原則を厳守する。
- ③ 日本の核戦場化へのすべての措置を阻止する。
- ④ 国家補償による被爆者援護法を制定する。
- ⑤ 原水爆禁止世界大会のこれまでの合意にもとづいて国際連帯を強化する。

核兵器廃絶

『戦争責任』とは何だろうか。加藤周一さんは「日本が戦争を防げなかつた理由」として①議会に反対勢力がなくなつた②司法がチェック機能を失つた③労働組合が産業報国会に組み込まれた④マスコミが戦争宣伝の道具になつた⑤市民運動が抑圧された等と述べた▼「特定秘密保護法」はその存在自体が社会的自由を強く圧迫する。報道や言論の自己規制が始まり、内部告発を抑制し、情報の秘匿化が促進されよう。非核の会に関することも当然、対象となりうる。やがて権力は腐敗し秘密は拡張運用され、公安が暗躍し、裁判も秘密に阻まれ、公開公正な審理はとても期待できない▼『ツワネ原則』は誰もが公的機関の情報にアクセスする権利を有し、その権利を制限する正当性を証明することは政府の責務である、としておりとてもよい▼情報は本質的に「知る権利」を有する主権者のものである。「特定秘密保護法」は主権在民の憲法原則に背く立法である。よって憲法が最大の盾となろう▼現代における『戦争責任』とは平和憲法を変質させる勢力に加担することである。故・加藤さんに「反戦によって日本人の名誉を救つた」(宮本顕治氏への追悼の言葉)と再び言わしめるのは忍びない。(ま)

訓練被害の一点で、これだけの運動の広がりがあるのだと実感した。

二日目の分科会の前に岩国米軍基地を一人で見学に出かけた。国道を四〇分ほど歩き、「錦帯橋空港入口」の看板を曲がると、海側に開けた広大な敷地で、そこは新設の民間空港と航空自衛隊基地と米軍海兵隊基地が同居した一角で、更に進むと星条旗と日の丸が翻ったメインゲートが現れた。休日のせいか、ものものしきは感じなかったが、工事車両がひっきりなしに出入りするところで、山口ナンバーの車両の横には〇〇工務店、製作所、土建屋等の名があった。北陸新幹線工事と同じように、不景気な時代の「救い」の公共事業だなど、妙に納得した。一回りしようと歩き始めたが、行けども行けども植栽とフェンスの列、更に布張りまでしてあって基地の様子は見えない。植木の切れた場所が一か所だけあって、機影らしきものが見えたので、急いでカメラで写したが、後で聞くと「F18ホーネット戦闘機」ということであつた。結局一時間半歩き続けて程よいウォーキングではあつたが、何も見えないことでストレスフルの状態で会場に向かつた。

二〇一五年NPTへ 被ばく国・日本の責務

私が参加したのは第五分科会「二〇一五年NPTへ、被ばく国日本の責務」である。このテーマを選んだ動機は、今年七月に石川県被爆者友の会に二世部会を立ち上げ、二〇一五年春、定年退職時の記念に仲間を誘ってニューヨークへ行こう、そのための事前学習にしようとの思いがあつたからだ。

原水協安井正和事務局長の報告に続いて、国際活動に参加している地域原水協や平和委員会の発言

もあつた。その中で私が学んだことは、核兵器全面禁止に向けた世界の運動は確実に変化している、ということである。今や非同盟諸国を中心に国連加盟国の多数が核廃絶に向けた姿勢を示し、核保有国も中国やロシアの変化の兆しもあつて一枚岩で抵抗しているのではない。イランの政権交代による影響、シリアの化学兵器に対する国際世論の盛り上がりなども変化の要因である。

今年四月ジュネーブの八五か国アピールに署名を拒否した日本政府の対応は国際世論の大きな批判に合い、マスコミでも報道された。そして一〇月の同趣旨の一二五か国アピールに賛同せざるを得なくさせたのも世界の世論であり、その世論を高めたのは被爆者に連帯した日本の草の根の平和運動であるということだった。もちろん核に固執する国々の抵抗はあるし、骨抜きをはかる策動もある。

これらの事実を、日本のマスコミはあまり報じようとしないうし、我々の運動の中で知らせていくしかないのだということを知った。そして二〇一五年ニューヨークで開催されるNPT再検討会議が大きな結節点になるだろうということだった。

被爆二世が次々と発言

発言される方は多くが地域の活動家なのだろうが、安倍政権の暴走に対して戦前を知る先輩の言葉を引いて「あの日の靴音が聞こえてくる」と警鐘を鳴らしていたのが印象に残っている。また、各県の被爆二世が次々と発言し、決意を述べていた。同じ世代の方々が、定年後の居住地活動として、故郷へ帰つてとか、中には「情勢の急展開に、もう待つていられないと定年前に仕事を離れ、自由な立場で活動します」と宣言する方まで現れて、拍手を浴びていた。私もささやかな石川での活動報告と決意を述べて交流に加わつた。

米軍海兵隊の一大拠点基地・岩国

岩国の街は古い宿場、港、城下町の顔を見せてはいるが、今や沖縄に次いで北東アジアで最大の米軍海兵隊の一大拠点基地へと変貌しようとしていた。基地全容は確認できなかったし、米軍兵士や家族の姿はあまり見かけなかったが、街中の看板は飲み屋も含めてどこも英語併記だった。この岩国の街で、改めて反核・平和に関する世界の動きを学び、同じようなことを考えている仲間がいることに励まされ、一歩前進の決意を固めることができた。良い機会を与えていただいた役員、送り出していただいた方がたに感謝する。



分科会「2015年NPTへ被ばく国・日本の責務」で参加者が決意を固める

映画「ひまわり」上映会

沖繩に寄り添い連帯

柴原 和美

一月七日、白山市松任学習センターで、映画「ひまわり」沖繩は忘れない あの日を空を」の上映会を開催し、二二〇人の参加がありました。この映画は、二〇一二年沖繩の本土復帰四〇周年企画として製作されたものです。

【映画のストーリー】

主人公の良太は、小学六年生の時にこの事故に遭い、仲の良かった友だちや下級生で二年生だった一平を失います。特に一平には、「ミルク給食をサボればいい」と言ったことから、一平が死んだのは自分のせいだと思いつつ続けます。また、一平の担任だった教師も、一平が教室の外に出て死んでしまったことで責任を感じ続けます。良太の孫の琉一は沖繩国際大学の学生で、ゼミを通じて一平の母親や良太の友人、一平の担任から当時の話を聞きます。基地の問題を歌や踊りなどで訴えていこうとコンサートを企画します。琉一の恋人加奈の父親は米軍基地で働いていて、基地を無くそうという思いから葛藤します。でも父親は、「米軍基地で働いている人の多くは、本当は基地がない方が良く思っているよ」と加奈に語り、そつと琉一たちがやろうとしているコンサートのチラシを出します。最後のコンサート

のみなさんに教えてもらった。あなたたちがいるかぎり沖繩は大丈夫だ。きつと青い空、きれいな海を取り戻すことができる」と語ります。

沖繩タイムスから借用した写真パネルも

今回の上映とあわせて、宮森小学校や沖繩国際大学の墜落事故の写真パネル展示もおこないました。この写真パネルは、沖繩タイムスからお借りしたものです。

戦後六八年、日本に返還されて四一年、沖繩はどのように変わったでしょうか？那覇市内などの風景は、まさに現代の都市の姿です。でも、米軍基地があることでの事故や犯罪は、戦後から変わっていないのです。

一九九六年にSACO（沖繩に関する特別行動委員会）最終報告では、五年〜七年で普天間基地を返還すると約束がされました。それから一七年が経過しましたが、返還されるどころかオスプレイが配備され基地は強化されています。返還は辺野古への新基地建設が前提となったからです。

普天間基地撤去と辺野古新基地建設反対で

オール沖繩のたたかい

これに対して沖繩県民あげて、普天間基地撤去と辺野古新基地建設反対の意思を示しました。自民党沖繩県連も党中央の意に反して「普天間基地県外移設」を参議院選挙の公約として掲げました。仲井真知事も「普天間基地は県外に」「辺野古新基地建設は困難」と言わざるを得ない状況です。このように、日本政府とアメリカ政府による「辺野古新基地建設」の意向と沖繩県民の意思とは一八〇度違っているのです。

一月の名護市長選挙が大きな焦点に

安倍内閣は、何としても辺野古新基地建設を強行しようとして、沖繩出身自民党国会議員や自民党沖繩県連に「普天間基地県外移設」を撤回させました。次は、来年一月一九日投票の名護市長選挙で、辺野古新基地建設容認の市長を誕生させ、県知事に「地元意向を尊重」と受け入れを認めさせることを狙っていると考えられます。

今回、少しでも沖繩のひとたちの気持ちに寄り添い連帯できたらと、映画とパネル展示を企画しました。少しは沖繩に近づけたかなと思っています。

（映画「ひまわり」を観る会事務局）



平和憲法公布六十七年記念石川県民集会

講演要旨

「憲法九条と二五五

脱核発電所・核兵器廃絶をめざして」

白崎 良明

一九世紀から二〇世紀初頭にかけて、世界の主な死因はペスト、また、世界人口の半数が感染者となり五千万人が亡くなったスペインかぜなどの感染症であった。二〇世紀に入ると戦争関連死が主因となり、第二次世界大戦では軍人・民間人合わせて五千万人（日本三二〇万人）が亡くなった。重大なことは戦争における軍人と民間人の死者の比率が九二対八（第一次世界大戦）、五二対四八（第二次世



脱核発電所・核兵器廃絶を訴える白崎良明氏
(11月2日、石川県教育会館ホール)

界大戦）、一五対八五（朝鮮戦争）から、五対九五（ベトナム戦争）と変化し、日常生活をしている民間人が戦争関連死のほとんどを占めるようになってきていることだ。

戦争反対は医師の社会的責任

アジア太平洋戦争を教訓として「再び戦争の惨禍が起こることのないようにすることを決意し、ここに主権が国民に存することを宣言し、」（憲法前文）、戦争の放棄（九条）、生存権と国の責任（二五五条）、個人の尊重・幸福追求権（一三条）が制定された。戦争に反対することは、国民のいのちと健康を擁護する責任をもつ医師の社会的責任である。

福島核発電所事故は日本を広島・長崎・南太平洋での被ばく国から、海洋汚染・大気汚染を通じた核汚染加害国に変えてしまった。

福島核発電所事故の甚大な影響

今、憲法二五五条・一三条の埒外に置かれているのは、福島核発電所事故の被害に遭った福島県民である。今だ一四万人が避難生活を強いられ、被ばくを強いられている。福島県はもちろん、栃木、群馬県などのホットスポットは放射線管理区域の基準である四万ベクレル（Bq）を越す六万Bq以上の地域である。

チェルノブイリでは五万Bq以上の地域住民は希望により、政府の責任で安全な場所に住宅を確保されている。すべての住民が被ばくの危険から除かれ、安心して社会生活が送れるように東京電力と国は責任を果たすべきだ。

使用済み核燃料の処理方法は未定

今、日本の核発電所の使用済み核燃料は一万七千トンあり、あと六年で貯蔵の限界を超えてしまう。低レベル放射性廃棄物はドラム缶で毎年三千本がふえ、これは地下四メートルに三〇〇年間保管しなければならぬが、この保管場所は決められていない。また、高レベル放射性廃棄物は核発電所で年三〇本出される。これはガラス固化して数十年冷却して地震・火山のない三〇〇メートル地下に一〇万年保管しなければならぬ。ガラス固化の技術も開発中、このような放射性廃棄物を子どもたちに残していけるだろうか。

安全で豊かな地球環境を次代に引き継ぐために脱核発電所にかける医師の社会的責任が問われていると思う。

国際赤十字社 核兵器を非人道兵器に認定

インド・パキスタン間で核兵器が使われたら、現地核被害はもちろん、地球低温化で約一二億人が飢餓状態になるといわれている。国際赤十字が核兵器を非人道兵器として認定し、廃絶に向けての活動を始めるなど核兵器廃絶に向けて国際的な取り組みが進んでいる。実現のためには国際世論が大きな役割を担っている。

安全で豊かな地球を子どもたちにつなぐために戦争反対、核兵器廃絶、脱核発電所を共通の課題として理解し、医師としての社会的責任を果たしたい。
(九条の会・石川医療者の会世話人)

◆講演要旨◆

学習運動そもそも話

岡山県労働者学習協会
事務局長 長久 啓太



11月24日、ホテルKKR金沢で開かれた記念集会

学ぶことを運動として広げる

学習運動は、「そもそも」論を得意にしてきた。科学的社会主義の基礎理論は、ものごとの根本、原則をつかみ、現代社会の変革に活かすためのものがある。歴史の必然性や背景をしっかりと学ぶことがものごとの本質を理解する力になる。

学ぶことを運動として広げる組織が労働者学習協議会（以下、学習協）である。学ぶことを目的

識的に広げる専門組織の必要性が自覚されたところから学習運動が発展してきた。労働者階級の団結の基礎は、共通性の自覚である。労働者の共通性とは雇用される立場、つまり生産手段を持たず労働力を売り続けなければ生きていけない労働者としての自覚である。

「知る」ことと「伝える」ことは一体

学習運動とは、「知る」ことと「伝える」ことが一体になったもの。学ぶことはおもしろい。新しい視点や視野を「知る」ことにより、それを「伝えたい」とする思いにつながる。

今の学校教育では、早く覚えること、寄り道せず回答を求めるため若者たちは突き詰めて考えるとか、仲間と議論することが苦手になっている。私たち学習協では、集団で学ぶことを重視しており、集団学習を組織する運動形態である。「集まること」と「学ぶこと」を生かして、新しい自分が育つてくる喜びを実感することができる。

学習運動、その歴史

なぜ学習運動が一九五〇年代に資本主義社会の日本に生まれ、一九六〇年代に全ての都道府県に広がり、半世紀以上に渡って活動を続けてきたのか。学習運動の歴史を概観すると、一九二〇年代から単発的に開催されていた労働学校は戦時中はずぶされたが、戦後まもなく再開され、一九五二年に労働者教育協会が創立され、一九六八年までに全ての都道府県に学習組織が結成された。一九六八年に開講された「勤労者通信大学」には一万人の受講生があった。

学習協には、労働者の学習要求を表現するための

アイテムとして月刊「学習の友」、「勤労者通信大学」、「労働学校」の三つの学習形態がある。労働学校等での「気づきあい」「学びあい」「高めあい」「深めあい」は大きな特徴である。

若い人へのアプローチ・岡山県学習協の教訓

岡山県学習協が大事にしてきたことは、年二回の労働学校の開催により、学習活動家を育成してきたことである。労働学校が今期で八六期まで続いている秘訣は、学習カリキュラムは学習協の責任で決めているが、受講生募集も運営の担い手も若手に任せていることである。

私たちの活動の原動力は、「人が変わる喜び」である。人が変わっていくことに関われる、手助けができる喜びを原動力としている。

若い人たちは自分たちを乗り越えていく世代という認識を持って向き合うこと、その可能性を信じて教育的観点で寄り添っていくこと。政治が不透明な社会の中で若い人は本物を求めている。若い人に本物を提示し、伝えることができるか、ここに私たちの運動のレベルが問われている。

（文責 非核いしかわ編集部）

◎本稿は一月二四日、KKRホテル金沢で開かれた石川県労働者学習協議会五〇周年記念集会の講演要旨です。講師は労働者教育協会の最も若い常任幹事の長久啓太氏（三九歳）。同会編集の「学習の友」に昨年六回連載された「継承のチカラ・伝えたいことがあ」が好評であり、講演依頼も快諾されたそうです。非核石川の会の活動の継承にもかかわる内容であり、本紙に紹介しました。

非核石川の会 リレーエッセイ

民主主義文学発展の力になれば

佐藤 正幸

日本民主主義文学会の準会員、同けんろく支部の末席を汚し(この言葉はへりくだった意味で使われているが、ほんとうに足手まといにならないようにと願うばかり)、何年になっただろうか。

会員になるには作品の発表、会員の推薦が必要だが、準会員は必要な費用さえ払えば誰にでもなれるので私のようなものでもなれる。が、送られてくる月刊誌『民主文学』に目を通すのもままならない。「ふまじめ」な私のようなものでも、民主主義文学発展の少しの力になれば、と思っただけで準会員となっている。

『民主文学』二〇一三年一二月号には、「宮本百合子全集」未収録文献「新憲法と婦人の現実」が掲載された。短い文章だが、戦前の弾圧に抗して夫・宮本顕治とともにたたかってきた力強さと、女性らしい凛とした文体に心を揺さぶられた。これだけでも、準会員になっていてよかった、と思える。同号には短編小説―生活保護申請を扱った「扶養照会」、精神疾患を描いた「回廊のある家」などが掲載されている。派手ではないが、書き手のあふれんばかりの思いに心が揺さぶられる。「遊戯的、消費的傾向」にあるとされる日本文学のなかに、社会の矛盾と真正面から向き合い、確固たる未来への確信をもって人間らしい営みを描こうと格闘する集団の一員となっっていることで、自らの襟もただされるし、自身

への励ましともなる。

短編小説集『ハンセン病療養所』(壺中庵書房刊)で第三四回多喜二・百合子賞を受賞した冬敏之さんが亡くなられたあと、妻・深津嘉子さんが、冬さんの遺志により日本共産党本部ビル建設資金を寄付したことが報じられた。筆舌に尽くし難い環境のなかで生き抜き、描いた冬さんの文学は心にせまる。その思いに恥じない生き方を、と自らに言い聞かせる。

二〇一三年秋には、金沢の地で北信越文学研究会が開催され、三〇人近い人たちが集った。民主主義文学運動は、着実に受け継がれていると確信した。



安全な生活を求める反原発集会を監視!

志賀原廃炉を求める県民集会在志賀町で開催された、その会場でのことです。

スタッフの一人が何気なく見た駐車場でおかしい動きをする人に目が止まった。しばらく様子を見てみると車の後ろから一台一台見ながら、洋服の襟もとを掴み何やら話をしているようだ。「おかしー!」直ぐにスタッフ数人が会場から駐車場へ。駐車場へ近づくスタッフに気づいた不審者はその場から一目散に走り出し、会場近くの道路に止めてあった車に飛び乗り逃げに行った。

今「特定秘密保護法」廃止が大きな国民世論となっている。この悪法を取り締まる元締めが警察であ

る。

安全な生活を求める反原発集会参加者を、この悪法を先取りするかのよう秘密裏に監視する警察(であろう)。国民生活を不安に陥れるような悪法「特定秘密保護法」を施行させることはできない。悪法と一緒に、安倍政権の退陣を求める声を上げよう。(谷 研)

書くことは運動の共有化の必須条件

本紙五面に掲載した講演要旨「学習運動そもそも論」の長久啓太氏のパンフレット『高まりあいの運動文化を』の文章から・・・。

・学習会は講義などを受けたあと、それを「深める」「共有する」ということは、学習会を成功させることと同じぐらいのエネルギーを使って行う必要があります。

・学習会の様子が文字媒体で残れば、参加できなかった人でもその内容を知ることができる。それをニュースやインターネットで発信すればみんなで共有することが可能になります。

・書くことは運動の定着化、経験の深めあい、共有化への必須条件です。

これは非核いしかわ編集部のスタンスと完全に一致しており、「学習運動そもそも論」講演要旨を本紙に紹介した所以です。(か)

詩人会議かなざわ「独標」より

揺れる風景の中で

市谷のぶ

真夜中からの雨が止んで

山合いからゆつくりと湧きあがる雲

小さな窓を吹き飛ばした風も止んで

始まったばかりの今日を祝福している

退院していや今年になって始めての集まり

老人会の昼食会と健康講座があると云うので

まだ心と体のバランスがとれないけれど

思い切って家を出る

まるで赤ン坊のように

手取り足取り椅子に腰掛けて見廻す会場

元気な人は活々と

もっと元気な人はきびきびと

老々介助の夫婦のように優しく優しく・・・

二つの集り掛持ちする人もいる中で

ただ座っているだけで心が晴れてくる

いい話は話として

残すのは悪いからと誰のお皿も空っぽになって

いる

今日顔を見ない人のことはそっとして

次回の約束もなく手を振り合って

心持ち少し元気になって

揺れ続ける風景の中を戻ってくる

特養入居待機者家族会発行

手記「老いを支えて・その三」

待機者・家族の思いと願い」

私たち「特別養護老人ホーム入居待機者家族会」

は、二〇〇二年五月に発会して二二年目を迎えよう

としています。発会以来「特養ホーム」を現状に見

合ったように増設を願って活動し、行政に訴え又は

マスコミを通じて市民や一般の人たちに現状を知

っていたりするために活動をしてまいりました。

改めて、要介護者の現実を知っていただくために

『老いを支えて その三』を発刊するに至りました。

介護保険制度の現状や特養ホーム入居待機者の現

状、特養ホームに入居した方々の声とご家族の思い

など幅広い関係者の声をまとめさせていただきま

した。

「介護保険法」が施行されて一〇数年が経過しま

したが、現状はますます厳しくなっているのが現実

です。今日の現状を知っていただくためにも、ぜひ

手に取っていただきお読み下さるよう、よろしくお

願い申し上げます。

(二〇一三年六月「老いを支えて―その三」発刊

にあたってより)

◆特養入居待機者家族会連絡先◆

〒九二一―八〇六五 金沢市上荒屋一丁目三九番地

電話 〇七六(二六九)〇八〇八

FAX 〇七六(二六九)二〇〇四

和定例句会報より

和川柳社の十一月例会が開かれなかったため、本号では「和定例句会報より」の転載は中止します。

代わりに和同人代表の岡田一杜選の「霜月抄」より紹介します。

盗聴されても黙って耐える木偶

大峰

密約で聖域なかつたTPP

啓

秘密法疫病神とうりふたつ

茂明

年金の杖を頼りに下り坂

狐堂

ファシズムの雄叫びうるさい文化の日

林

改憲を叫び亡霊呼び醒ます拍手

亀公子

意図的を誤表記とする儲け主義

一杜

ご報告とお礼

前号で山口県岩国市で開催された日本平和大会への代表派遣費用の募金のご報告とお礼を申し上げます。その後も募金があり、計一八人様から三万八千円が寄せられました。

お礼を申し上げます。

日本平和大会に参加された池田治夫さんの報告が今号に掲載されていますので併せてお読みください。

非核の政府を求める石川の会常任世話人会

故清水正明医師の広島被爆絵画シリーズ④

火と水

遠くで火がもえる
近くにも火がまわった
水がほしい、水をくれ・・・
地上で七〇〇度の高熱に焼かれ
全身火傷の肉体が求めるものは
水、水だった
あてもなくフラフラと歩く彼らの
眼には ただ火と水しか
なかった



輪島市教育委員会所有

《非核平和・行事予定》

- ・二月二三日(月)一三時：講演「中国事情と日中友好のゆくえ」平井潤一中国研究者／日中友好協会参与・「二胡演奏」奏者李彩霞・再建総会と懇親会・県教育会館二階
- ・一月一日(水)一〇時：元旦核廃絶署名・尾山神社前
- ・一月九日(木)一二時半：核廃絶署名Mザ前
- ・一月二二日(日)一九日(日)：沖縄県名護市長選挙
- ・一月二一日(土)一四時：公開講座「七三二部隊と金沢」『勤昭三業績集』に見る、講師勤昭三城北病院名誉院長・一五年戦争と医学医療研究会北陸支部準備会
- ・一月二二日(日)一九日(日)：沖縄県名護市長選挙
- ・一月二七日(金)一八時：非核石川の会新年懇親会・どなたでも参加できます
- ・一月二三日(木)一八時半：二〇一四年平和団体新春の集い・県教育会館二階
- ・一月二五日(土)一〇時：北陸原水協学校・特別講演土田弥生日本原水協事務局次長・場所福井県自治会館・参加申込みは石川原水協又は非核石川の会まで
- ・二月六日(木)一二時半：核廃絶署名Mザ前
- ・二月二〇日(金)：非核石川の会会報「非核・いしかわ」一八六号発行
- ・二月二七日(木)三月一六日(日)：石川県知事選挙
- ・二月二七日(木)三月一日(土)：被爆六〇年三・一ピキニデー静岡市・焼津市
- ・三月八日(土)：国際婦人デー
- ・三月二九日(土)一三時半：安井正和日本原水協事務局長を迎えて学習講演会・詳細は未定・二〇一五年国連に要請団を送る石川の会(仮称)

・五月三日(土)：輝け！九条石川県民集会・記念講演「演題未定」斉藤貴男ジャーナリスト・本多の森ホール・主催九条の会石川ネット

絵手紙コーナー

「原発ゼロ政策撤回を受けて」

金沢医療生協絵手紙班 田伏久子



《編集室より》

◎国民の「知る権利」や「表現の自由」を侵す恐れのある「特定秘密保護法」は強行採決された。全国で各界各層の広範な人たちが「法の廃止・撤廃」を求め引き続き活動を継続している。金沢でも市民グループの撤廃を求める抗議のデモがあり参加した。報道陣も数社デモ隊の移動に寄り添って取材していたが、今回の取材は何時もと違っていた。某女性記者は主催者の「秘密保護法撤廃」「施行するな」等のシユプレヒコールに併せて、自分も口を開け叫んでいた。その表情は真剣だった。(平)